

北九州市民の会ニュース

2500人の原発なくそうの声！

3月9日（日）三萩野公園で「さよなら原発！3.9北九州集会」が行われ、2500人が参加しました。

東日本大震災から3年がたちますが、いまだに収束しない福島原発事故、それなのに再稼働を進めようとする電力会社に対し、原発を動かすな、原発をなくせとアピールしました。

集会はバンド演奏から始まり、「Daddy津田&チキピー」、「ZANT With 彩虹」、「ひなたぼっこバンド」、「北九州のうたごえ」が歌で脱原発を訴えました。その後北九州市立大学の「大道芸愛好会」、「ヨサコイ」が行われ大学生の若いステージが集会を盛り上げました。

また、出店も行われうどんやカレー、コーヒー、バザー、展示、各団体のテントなど集会を盛り上げお祭りのように集会は進んでいきました。



【北九州大学のヨサコイ】

その後、本集会が行われました。初めに東日本大震災で亡くなった方へ黙祷をささげ、代表呼びかけ人挨拶、原発再稼働についての話も行われました。毎週行っているさよなら原発！金曜行動の再現も短い時間で行いました。福島の避難者からの発言では中学生の塚本涼于さんが福島から北九州へ避難してきた実態を話し、脱原発を訴えました。

集会宣言を読んだ後、「知ってんだーズ」によるパフォーマンスを行い、原発なくそうのデモを行いました。

原発なくそうという声はいまだ強いままで。原発事故は収束しておらず、連日のように汚染水のニュースが流れています。原発の再稼働は許さず、原発のない未来へ運動していきましょう。



【集会には2500名の参加者】

北市職労退職者を励ます集い開催

3月14日リーガロイヤルホテルで北九州市職員労働組合は、今年度退職者を励ます集いを開催されました。永年の市職労運動へ発展へのご尽力に感謝し、磯田委員長より一人一人に感謝状を渡しました。最後に参加者全員で「頑張ろう」を歌いました。



【退職者を励ます集いの様子】

平和とくらしを守る北九州市民の会
〒803-0817 小倉北区田町13-21 田町ビル3F
TEL093-592-5000 FAX093-571-4346
<http://siminnokai.sakura.ne.jp>
e-mail:koe@siminnokai.com

野村先生を囲む会

野村拓先生が米寿を迎えられた。3月15日(土)付で、20年間努めていただいた北九州医療・福祉総合研究所所長を退かれます。この日、先生の米寿を祝い、20年間のご尽力に感謝する集いがありました。

先生は、「自分史八十八カ所・頭のお遍路」と題して、ユーモアたっぷりに圧巻の自分史を語ってくれました。一同爆笑あり、感嘆あり、感心するばかり――――感動の余韻をのこす最後の名講義を聞きました。なお、3月31日付で健和看護学院学院長を退職する三輪俊和市民の会事務局長が新所長に就任します。



【米寿を迎えられても元気】

さよなら原発3.9北九州集会 集会宣言

2011年3月11日に起きた福島原発事故から3年が経過しました。しかし、事故は未だ収束せず、大量の放射能が海に、空に、大地に放出され続けています。今なお、14万人以上の人たちがふるさとを追われ、家族や地域が分断されたまま、厳しい避難生活を強いられています。そして、事故の収束も原因究明も全く不十分なまま、原発の運転再開に向けた動きだけがなし崩し的に進められているのです。

九州電力は昨年7月8日、川内原発1、2号機の、7月12日には玄海原発3、4号機の再稼働に向けた申請を原子力規制委員会に行いました。原発の再稼働申請にあたって原子力規制委員会は、電力各社に「想定しうる最大規模の過酷事故とその対応」を求めました。九州電力が想定した過酷事故は、「大口径配管破断による冷却水流出、緊急炉心冷却水注入失敗、格納容器スプレー注入失敗」の3つが重なった時、約20分で炉心が溶融するというものです。

絶対に起こりえないとされてきた過酷事故が想定されました。しかしその対策は、格納容器の底に水をためるだけで事故の拡大は防げるとする九州電力。福島原発事故を何ら教訓化しようとする新たな安全神話は絶対に許されません。

原発の再稼働は事故が起きることを前提にしています。そして、事故による大量の放射能放出も想定し、それに備えて広範囲の自治体は避難計画と訓練が求められ、私たち住民には被ばくの覚悟が求められているのです。

地震列島の上に林立する原発。福島の悪夢が繰り返されない誰が保障できるでしょう。数十万年という途方もない先まで消えない放射性廃棄物を積み重ね、一体どうするのでしょうか。子どもや孫や見も知らぬ未来世代にまで、汚れた地球を残すことが許されるのでしょうか。

一昨年(2012年)の12月25日、最後まで運転を続けていた玄海4号機が運転を停止しました。それまで九州の電力は4割が原子力に依存し、原発が止まれば九州の経済は立ち行かないと言われていました。しかし九州にある6基の原発はこの2年間止まったままです。それでも社会は何の問題もなく動いてきました。私たちは原発なしで暮らしてきたのです。もはや原発など必要ありません。当面は火力発電に頼るしかありませんが、効率の悪い古い火力発電所を最新鋭のガスコンバインドサイクル発電に置き換えることで、環境に負荷を与えない安価で安全な電力を得ることが可能です。そして、再生可能エネルギーを増やしていきましょう。

今日、ここに集まった私たちは、原発の再稼働を断じて許しません。原発回帰の政策は許しません。フクシマとつながり、原発とさよならすることをここに宣言します。

2014年3月9日 「さよなら原発!3.9北九州集会」参加者一同